

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 1 生徒一人ひとりの持てる力を最大限に引き出す学校
- 2 希望する進路が実現できる学校
- 3 社会人として通用するマナーと社会人基礎力（考え抜く力、行動する力、コミュニケーション力）が獲得できる学校
- 4 質の高い教育により、人間性豊かな人材を育成する学校
- 5 生徒及び保護者が「入学して（入学させて）良かった」と思える学校

2 中期的目標

<※令和4年度からの3か年目標>

1 基本的生活習慣を自らコントロールできる生徒の育成 — 生徒指導の充実 —

- (1) あいさつ運動や生徒との対話を重視し、安心して学習に臨み、かつ魅力のある学校づくりをめざす。
- (2) 社会人として通用するルールやマナーについて、自ら考え自ら行動できる生徒の育成をめざす。
- (3) 生徒一人ひとりのニーズに寄り添い、生徒が相談しやすい生徒指導体制をめざす。

※学校教育自己診断(生徒対象)の「学校生活についての教員の指導」に関する項目で満足度を毎年2%引き上げ、令和6年度には76%にする。
(R1 59%, R2 67%, R3 70%)

2 夢や目標に向かって自ら努力できる生徒の育成 — 進路指導の充実 —

- (1) 現行の「3年間を見通した進路指導」を発展させ、生徒の進路希望を見据えたキャリア教育指導の充実を図る。
- (2) 新学習指導要領に基づき編成した教育課程により、授業内容の見直しとともに、生徒の進路希望に対応できるような授業の質の向上をめざす。
- (3) 将来教員を志望する生徒のための「教職トライコース」における専門教科・科目の実施、特に「教職講義」及び「教職実習」の円滑な運営を図る。
- (4) 各教科の指導内容と進路実現との関係性を重視し、教科間の意思疎通を図りながら、相互補完的な学習指導を構築する。
- (5) ICT機器の活用や研究発表等、アクティブラーニングの機会を増やすなど、生徒の学習意欲や自己表現力の向上をめざす。
- (6) 生徒個々の学力測定を綿密に行い、計画的な学習スケジュールを提供し、家庭学習の定着化を図る。
- (7) 外国語学習や国際交流を通じて、国際社会の一員としての自己実現をめざす。

【進路成果指標】3年生時点における第1志望大学の合格率90%以上(R1 64.9%, R2 70.0%, R3 75.5%)。

国公立大学及び難関私立大学合格者数の合計15人以上。(R1 10人, R2 1人, R3 14人)

※学校教育自己診断(生徒対象)の「進路実現に関する項目」で満足度を毎年2%引き上げ、令和6年度には97%にする。

(R1 83%, R2 88%, R3 91%)

3 文化・芸術・スポーツを愛し、心豊かな感性を持つ生徒の育成 — 特別活動の充実 —

- (1) 行事や特別活動を通じ、生徒が自主的・主体的に参加できるような土壌を育成する。
- (2) 行事や特別活動を通じ、プレゼンテーション能力の向上をめざす。
- (3) クラス活動等の活性化を図り、学校行事の質の向上と生徒の自己有用感の育成を図る。

※行事やホームルーム活動等の満足度を毎年2%引き上げ、令和6年度には行事82%、HR87%にする。

(R1 行事59%、HR67%、R2 行事68%、HR73%、R3 行事76%、HR81%)

4 地域や社会で貢献できるボランティア精神を持つ生徒の育成 — 地域連携の充実 —

- (1) 関連部署が連携し、学校広報活動(学校見学会、体験入学等)や学校行事への生徒の主体的な参加を推進する。
- (2) 「地域との連携」の中から、生徒の自己有用意識を高めるため、地域のイベントや清掃活動等への生徒の参加機会を増やす。
- (3) ホームページ等での情報発信力を高め、保護者や地域とのより綿密な連携を構築する。

※生徒が主体的に参加する学校説明会やボランティア活動の参加者を毎年増員し、令和6年度には450人にする。(R1 300人, R2・3未実施, R4 770人)

5 人の立場に立って考えることの出来る豊かな人権感覚を持つ生徒の育成 — 人権教育の充実 —

- (1) 安全安心な学校づくりの観点から、「人権教育基本方針」や「人権教育推進プラン」等に基づき、差別を許さない力と意志を持った生徒の育成をめざす。
- (2) 相談体制を高め、様々な課題を抱える生徒のサポートに対応するための環境整備を充実させる。
- (3) 知的障がい生徒自立支援コースの生徒に「ともに学びともに育つ」教育を実践する中で、全校生との人権意識の向上をめざす。

※学校教育自己診断(生徒対象)の「人権教育等に関する項目」で満足度を毎年2%引き上げ、令和6年度には95%にする。(R1 73%, R2 79%, R3 89%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年2月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学校満足度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学校満足度は昨年度より11ポイント下がった。3年生は7ポイント上昇しているものの、1, 2年が大幅に下がっている。また「学校に行くのが楽しい」は7ポイント減少している。 入学時の遅刻指導等が影響していると思われる。ただ、この時期の指導により本校の落ち着いた学習環境が維持でき、生徒の進路実現に結びついている。 <p>【生徒指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「電子黒板等のICT機器が、授業などで活用されている」「教え方に工夫をしている先生が多く、授業はわかりやすい」についてはそれぞれ6ポイント上昇。約9割の教員が電子黒板を活用しており、内容についても工夫しており、成果が出ている。 保護者向け診断においても「子どもは授業がわかりやすく楽しいと言っている」8ポイント上昇している。 <p>【進路指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け診断「進路実現に向けての指導」は昨年度とほぼ変わらず。保護者向け診断でも8割超を維持。 ・生徒向け診断「コース選択等の指導」は昨年度とほぼ変わらず。進路実現のための情報提供やコース選択の指導等がきめ細やかに実施されていると考えられる。 <p>【特別活動】</p>	<p>【第1回：6月22日】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学校経営計画より 【進路指導の充実】 <ul style="list-style-type: none"> ・1人1台端末の活用：朝の小テスト、教科指導、グループワーク等 指定された場所で活用。今後WiFi環境の整備が必要。 ・電子黒板の活用 ほとんどの教員が活用している。生徒の反応も良い。 ・英検に力を入れている(2級を目標)進路実績(国立2名・難関私学14名) 【特別活動】 <ul style="list-style-type: none"> ・体育祭、文化祭の実施(感染対策を考慮)、学校説明会での生徒のプレゼン 【人権教育の充実】 <ul style="list-style-type: none"> ・自立支援コース 農作業や園芸作業の実施 ② 授業見学 <ul style="list-style-type: none"> ・静かに授業を受けているのに驚いた。生徒も教員も100点満点である。素直で真面目な生徒が多い。 ③ その他 <ul style="list-style-type: none"> ・地域への広報活動協力(町内会の掲示板や回覧板の活用) ・自転車通学者の指導をしてほしい。 <p>【第2回：7月21日】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 令和4年度学校経営計画(進捗状況について) 【生徒指導の充実】 <ul style="list-style-type: none"> ・「生徒が相談しやすい生徒指導体制」担任、学年がそれぞれ相談を受けているが保健室の役割が非常に大きい。「学校生活についての教員の指導」：満足度が徐々

府立八尾翠翔高等学校

<p>・生徒向け診断で、行事満足度およびホームルーム等満足度は昨年度とほぼ変わらず。コロナ禍の中、生徒の意見も聞きながら行事を実施したことと、2年生の修学旅行が予定通り実施できたことが影響していると考えられる。(2年生のポイントが高い)</p> <p>保護者向け診断においては、行事が実施できた影響で「学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」9ポイント上昇している。</p> <p>【その他】</p> <p>・生徒向けの診断で「学校のSNS (Instagram・Twitter・YouTube) または学校のホームページを今年度見たことがある」が大幅に上昇している。保護者についての診断も同様である。</p>	<p>に上がってきている。SCについて相談予約(生徒、保護者)が多いため、回数を追加した。SSWは今年度より配置。教員研修も含めて今後の活用について検討している。</p> <p>【進路指導の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上委員会 年に2回授業見学週間を設けて、教員の授業力向上をめざしている。外部講師を招いて、教科指導、進路指導についての研修を実施している。 ・進路実現に向けた講習の充実 ・教職トライ専門コース2年「教職講義」: プレゼン能力が向上。3年「教職実習」: 小学校への実習 最初は接し方がわからなかったが慣れてきた。小学校からも好評である。 ・1人1台端末の活用 各教科でネットを利用すると便利。家庭学習の定着: 教育産業からの教材配信を導入したが、自発的には活用できていない。 ・外国語学習 英検資格取得 大学受験にも利用 <p>【特別活動の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼン能力の向上 茶吉庵活性化プロジェクト(2年生) <p>【地域連携の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明会や出前授業の実施 地域への広報活動(掲示板や回覧板の活用) ・学校案内パンフレット(大教大と連携して作成) ・地元ラジオ局や八尾市との連携(合同説明会・合同文化祭) 地域のイベント参加 <p>【人権教育の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立支援コース 部活動や文化祭でのダンスパフォーマンス <p>② 第1回授業アンケートの結果 生徒取組・教材活用・授業分析・生徒意識については昨年を上回っている</p> <p>③ スクール・ミッションについて</p> <p>④ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食堂業者の撤退 新しい業者の委託と食堂のリニューアルを考えている。 ・保護者の対応(今年度は多い) 丁寧に説明し、対応している。 <p>【第3回: 2月20日】</p> <p>① 令和4年度学校経営計画(評価)、令和5年度学校経営計画(案)について 令和4年度評価では「生徒指導の充実」の項が目標値を下回っている。きちんと指導することでよい生徒に育っているし、授業も落ち着いた雰囲気勉強に集中できている。</p> <p>② 令和4年度学校教育自己診断 学校満足度が減少している。1, 2年の数値が極端に低い。3年は高い。毎年のものであるが、学年が上がるごとに満足度が上がる傾向にある。遅刻等の指導は必要であり、きちんとできていると評価できる。満足度につながるよう納得感のある指導が必要。</p> <p>③ 第2回授業アンケート 授業に関する評価は上がっている。先生方のICTの活用や工夫した授業が評価に反映している。講義形式より実技の方が高い。</p> <p>④ その他 卒業式は来賓なしで実施する。</p>
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
1 生徒指導の充実	<p>(1) 生徒との対話と学校生活における満足度の向上</p> <p>(2) 社会ルールの獲得と自己表現力の育成</p> <p>(3) 生徒の立場に配慮した生徒指導の充実</p>	<p>(1) 生徒と積極的に対話を重ね、生徒が主体的に行動するよう働きかけるとともに、生徒の活躍を校内で紹介し、活気ある学校にする。</p> <p>(2) <input checked="" type="checkbox"/> 生徒が自ら考え行動するよう生徒にとって納得感のある指導を行い、自主的に社会規範を身に付けるよう計画する。 <input checked="" type="checkbox"/> 授業やHR活動にディベートなどをこれまで以上に積極的に取り入れ、生徒が自ら考え発表する機会を増加させる。</p> <p>(3) 生徒が気軽に相談できる雰囲気が高まるよう、教員のカウンセリングマインドの更なる充実に向けた研修等を実施する。</p>	<p>(1) 生徒向け学校教育自己診断における学校生活等の項目における肯定的回答の向上 ※77% [75%]</p> <p>(2) <input checked="" type="checkbox"/> 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答の向上 ※72% [70%] <input checked="" type="checkbox"/> 生徒向け学校教育自己診断アンケートにおけるプレゼン能力の肯定的回答の向上。 ※80% [78%]</p> <p>(3) 学校教育自己診断における教員と生徒の距離感に関する項目での肯定的回答の向上 ※61% [59%]</p>	<p>(1) 玄関の大型テレビモニターで学校行事・部活動等の記録を発信 67% (△)</p> <p>(2) <input checked="" type="checkbox"/> 社会規範を身に付けることの大切さを折に触れ説明し、指導した。64% (△) <input checked="" type="checkbox"/> 授業や総合的な探究の授業でプレゼンの機会を設けた。64% (△)</p> <p>(3) 教員による声掛けを日ごろから励行し、生徒が相談しやすい雰囲気づくりに努めた 43% (△) 生徒にとって納得感のある指導の推進、生徒が主体的に発表する機会や徒相談体制の充実を図ることが必要</p>

府立八尾翠翔高等学校

2 進路指導の充実	<p>(1) キャリア教育指導の充実</p> <p>(2) 授業改善に係るシステムの構築</p> <p>(3) 新たな専門コースの運営</p> <p>(4) 系統立てた教科指導の確立</p> <p>(5) 学習意欲向上と自己表現力の育成</p> <p>(6) 家庭学習の定着</p> <p>(7) 国際交流活動の活性化</p>	<p>(1) <input type="checkbox"/> 生徒向けの進路選択及び科目選択について、個々の教員のガイダンス能力を高める。 <input type="checkbox"/> 授業や調べ学習、セミナー等において、積極的にキャリアガイダンスステーションを活用するとともに、教員が生徒と対話を重ねながら、生徒のモチベーションを維持し、個々の進路選択について支援する。</p> <p>(2) 教員相互の授業見学・授業研究週間を年2回実施すると同時に、先端的な教科指導に関する研修を開催し、教員の授業力の更なる向上をめざす。</p> <p>(3) 「教職トライコース」の教育課程の円滑な実施を通して、生徒に将来教員になるための素養を育む。</p> <p>(4) 各教科が育てたい生徒像と身に付けさせたい学力を確認し、3年間の指導計画を作成する。同時に「授業改善」に向けた議論と教材の共有化を図り業務の効率化をめざす。</p> <p>(5) <input type="checkbox"/> ICT機器や視聴覚教材を活用して授業展開に工夫を加えるなど、生徒の学習意欲向上に繋がる授業づくりを推進する。 <input type="checkbox"/> グループ学習やペア学習、研究発表などアクティブラーニングを活性化し、生徒の理解力、自己表現力の向上をめざす。</p> <p>(6) 生徒が継続的に家庭学習に取り組むために教育産業による学力検査等を利用し、個々の学力目標に向けた学習計画を作成し支援する。</p> <p>(7) 海外語学研修を計画し、実施する。</p>	<p>(1) <input type="checkbox"/>及び<input type="checkbox"/></p> <p>①生徒向け学校教育自己診断における進路指導、進路ガイダンスに関する肯定的回答の向上 ※ 93% [91%] ②卒業時の国公立大学及び難関私立大学合格者数の合計 15人以上[15人](3月)</p> <p>(2) ①生徒向け学校教育自己診断における授業改善に関して、肯定的回答の向上 ※80% [78%] 授業アンケート全教科平均値の向上 ※3.29 [3.27]</p> <p>(3) 「教職トライコース」における専門教科・科目の円滑な実施、特に「教職講義」及び「教職実習」の運営。</p> <p>(4) 教員相互の授業見学、教員研修等(各2回)教材の共有化を「自己申告票」に各教員が記載。コース選択に基づく、生徒の希望進路に応じた学級編成。</p> <p>(5) <input type="checkbox"/>生徒向け学校教育自己診断におけるICT機器に関する項目の肯定的回答の向上※92% [90%] <input type="checkbox"/>会議室(ICT機器導入)や電子黒板の積極的な活用。※活用率81% [79%] 会議のペーパーレス化推進し、会議の時間短縮に取り組む。</p> <p>(6) <input type="checkbox"/>「勉強クラブ」の運営。 <input type="checkbox"/>生徒向け学校教育自己診断における家庭学習状況に関する項目における肯定的回答の向上 ※56% [54%]</p> <p>(7) 海外語学研修の実施。参加者 25人以上目標。 [R3未実施]</p>	<p>(1) <input type="checkbox"/>及び<input type="checkbox"/></p> <p>①目標値を下回ったが、ひとり一人に応じた丁寧な進路指導により生徒満足度は向上した。(○)ガイダンスステーションの活用については工夫が必要。88% ②18人(◎)</p> <p>(2) 教員相互の授業見学週間を設けるとともに教科指導に係る研修を実施(7月・2月)。83%(◎)授業アンケート全教科平均3.27指標を下回ったが、ほとんどの教員がICT活用を中心に教科指導の工夫が見られたため(○)</p> <p>(3) 「教職トライコース」の充実「教職講義」大学教授16講座 学校の独自プログラム8講座 「教職実習」八尾市立小学校14校で実習。中学校の進路行事に参加(○)</p> <p>(4) 教材の共有化について各教員が「自己申告票」に記載。(○)</p> <p>(5) <input type="checkbox"/>ICT活用に向けた校内体制の整備90% 指標を下回ったが、情報に関する組織を中心に機能的に運営できた。(○) <input type="checkbox"/>電子黒板活用率(88%/全教員)(◎) 次年度より会議資料のデジタル閲覧を実施。(○)</p> <p>(6) 学力検査や週2回の朝の小テスト、英検・漢検受験を通じて家庭学習の定着を図った。51%(△) 教育産業の提供する学習教材の活用を図る</p> <p>(7) 新型コロナウイルスの流行により研修は実施できず。(△)</p>
3 特別活動の充実	<p>(1) 生徒の主体的な活動の活性化</p> <p>(2) プレゼンテーション能力の育成</p> <p>(3) ホームルーム活動の活発化</p>	<p>(1) 学校行事等の企画・運営段階からの生徒の積極参加を促し、生徒が自ら運営し実現したという達成感を獲得できるようにする。</p> <p>(2) 学校行事や総合学習における生徒のプレゼンテーションの機会を増やす。</p> <p>(3) 主体的・対話的なホームルーム活動を行い、生徒会活動や部活動を中心に、生徒の意見を吸い上げ、その活性化を図る</p>	<p>(1) 学校教育自己診断アンケートにおける肯定的回答の向上 ※78% [76%]</p> <p>(2) 学校教育自己診断での、プレゼン機会の肯定的回答の向上 ※80% [78%]</p> <p>(3) 「意見箱」の意見を反映 部活動参加率の向上 ※65% [63%]</p>	<p>(1) 体育祭等学校行事を生徒の意見を反映して実施。75% 指標は下回ったが、意見をきちんと取り入れ実施できたので(○)</p> <p>(2) 授業等でプレゼン機会を積極的に取り入れた。64%(△)</p> <p>(3) 学校行事で「意見箱」の意見を反映。部活動参加率 60%(△) プレゼン機会の充実及び部活動活性化の取組みが必要。:学校の部活動への取組み評価 79%</p>
4 地域連携の充実	<p>(1) 学校広報活動の推進</p> <p>(2) 生徒による地域進出の推進</p> <p>(3) 積極的な情報発信</p> <p>(4) 大阪教育大学との連携</p>	<p>(1) 学校説明会や体験入学、中学校への学校案内における生徒主体の広報活動を展開する。大教大と連携して学校紹介リーフレットを作成</p> <p>(2) 曙川東地区等の清掃活動や、地域の保育園・高齢者福祉施設等と連携した生徒の活動を増やし、愛される学校をめざす。</p> <p>(3) 本校の取組みを、ホームページ等を活用し、積極的に発信する。地元中学校との連携強化を図る。</p> <p>(4) 大教大との連携について整理・調整。大教大主催の教員志望者プログラムへの参加を積極的に薦める</p>	<p>(1) 広報活動への生徒参加者数 ※300人以上目標[のべ770人] ポスターやリーフレットを八尾・柏原・東大阪市中学校を中心に広く配布</p> <p>(2) 地域のボランティアへの参加者数 ※延べ350人,[未実施] 地域交流の場への参入「茶吉庵 project」</p> <p>(3) HPのブログ更新100回/年、学校説明会参加者数550人以上[402人(1月)] 地元中学3年生を本校に招く「翠翔 day」開催 [未実施]</p> <p>(4) 連携メニューを整理。「教職講義」で大教大教授の講義。7回 「教師まっすぐ」参加者数10人[8人]</p>	<p>(1) 積極的な広報活動 八尾・柏原・東大阪市中学校を積極的に訪問。(◎)対象校以外の中学校にも数多く訪問した。</p> <p>(2) 地域の保育所への演奏活動(2園)、八尾市合同文化祭参加、「茶吉庵 project」実施。(○)実現可能な案を提示できた。</p> <p>(3) 学校紹介動画放映(市内商業施設)地域掲示板・回覧板で情報発信 HPのブログ更新193回/年 部活動ブログ更新61回/年 学校説明会参加者459人(1月) 2中学の3年生を招く(○)</p> <p>(4) 大教大との連携 「教師まっすぐ」参加者0人(△) 昨年度1年生で参加。今年度は2年生のみ対象となったため「教職講義」(6講座/年)(○)</p>

府立八尾翠翔高等学校

5 人権教育の充実	<p>(1) 安全安心な学校作りの推進</p> <p>(2) 生徒相談体制の環境整備</p> <p>(3) 自立支援コース生徒との協働作業の促進</p>	<p>(1) 不登校や問題事象の兆候を感知できる教員力の強化とともに、いじめに対しては、早期発見に努めるとともに、事象に対しては、組織的に迅速な対応を行う。</p> <p>(2) 様々な相談に対応できるように、関係教員のスキルアップを図ると同時に、発達障がい等に対するケアについても的確に指導できる体制を構築する。</p> <p>(3) 自立支援コース生徒への教育活動を通じた「ともに学び、ともに育つ」教育の一層の充実。生徒の自己肯定感の育成とともに、コース生以外の生徒との協働作業を通じて相互理解を深め、信頼し励ましあう関係を作る。</p>	<p>(1) 生徒向け学校教育自己診断の人権意識に関する項目での肯定的回答の向上 ※81% [79%] いじめに関するアンケート 年1回実施</p> <p>(2) 生徒向け学校教育自己診断の教育相談等の項目における肯定的回答の向上 ※61% [59%]</p> <p>(3) 生徒向け学校教育自己診断の人権意識に関する項目での肯定的回答の向上 ※91% [89%] 自立支援・共生推進卒業生アンケートにおける同級生の肯定的回答の向上[84%] (R5年5月末にR4数値提示)</p>	<p>(1) いじめ等人権に係る問題事象の兆候を見逃さず対応するよう心掛けた。 81% (○) いじめのアンケート実施 (1月)</p> <p>(2) 定期的にサポート委員会を開催し生徒状況の共有とサポート体制構築に努めた。43% (△) 生徒相談体制の充実：保健室前に相談ポスト設置</p> <p>(3) 学校行事等での協働作業を通じて相互理解は深まっている。 83% (△)</p>
--------------	--	---	---	---